

『五本指の契り』

◇登場人物

・記者／スターター

・山井

・高村

陸上・短距離走の練習場（トラック）。

高村、軽くジョギングをしている。

その後にくつつくように、記者が付いて回る。

高村、鬱陶しそうにしている。時折、記者を巻こうと試みるも、ことごとく失敗に終わる。

高村 もう・・・しつこいなあ。

記者 ええ。中学時代、あだ名が「換気扇の油汚れ」で。

高村 それはしつこい。

記者 五分だけでいいんで。お願いします。高村さんにはご迷惑をかけるな
いので。

高村 もう既にかけてるよ。

記者 なら、もういいじゃないですか。

高村 なんですだよ。

記者 どうせシャンプーするなら、リンスまでやれよってことですよ。

高村 わかんねえよ。

記者 え、わかりませんか？ どこがわかりませんか？ シャンプーするなら、

リンスもやったほうがいいですよね？ ね？

記者、高村の顔にやたらと近づき、問い詰める。

高村、かなり鬱陶しそう。

高村 くだいよ。

記者 ええ。高校の頃、あだ名が「朝から味噌カツ」なんで。

高村 それは食えない。

記者 ねえ、高村さん。お願いしますよ。

高村 いやだよ。試合近いから勘弁してよ。

記者 小さなことでもいいので・・・なんなら、事件のことじゃなくても。
山井さんの人柄とか、人間関係とか。

高村、立ち止まる。

記者 なにか、思い出しましたか？

高村 あんた、いま、事件って言った？

記者 ええ。

高村 事故でしょ？

記者 表向きは。

高村 は？

記者 山井さんは、殺されたんです。

間

記者 山井さんは、殺されたんです！ 山井さんは……

高村 おい！ なんで何回も言うんだよ。

記者 返事しないので聞こえてないのかと。

高村 なんなんだよ……。

記者 すいません。大学時代、あだ名が「ドラゴンボールの戦闘シーン」
なもので。

高村 あれは俺もどうかと思う。長過ぎなんだよな！ ……でなに？
山井は殺された？

記者 はい。

高村 バカなの？

記者 はい。あ、いいえ。

高村 どっち？

記者 どっちも。

高村 え、え……山井は、交通事故で死んだんじゃないの？

記者 警察はそう言っています。

高村 じゃあ、なんで。

記者 なんとなく。

高村 バカなの？

記者 はい。あ、いいえ。

問

高村、大きくため息をつく。

高村 もう帰ってくれ。あんたのその「なんとなく」の無駄な取材には付
き合ってもらえないよ。

記者 これは無駄な取材なんかじゃありません。だってあの、「不屈のス
プリンター・山井」ですよ？ 彼のおかげで、日本短距離界の、いや
日本中の、どれだけの人間が勇気をもらえたか。そんな人の死が、こ
んな簡単に流されていくのが、私には許せないんです。私は、新聞記
者として、ジャーナリズム精神に基づいて真実をあぶり出そうと思っ
ているんです。

高村 あんた、記者って言ってもスポーツ新聞だろ？

記者 新聞は新聞です。

高村 うるせえよ。帰れよ。

記者 嫌です！ 嫌に決まっています！

高村 だから試合近いんだよ！ 練習の邪魔！

記者 終わったあととは？

高村 用事があるの。

記者 じゃあ、休憩中にお願いできませんか？ カルボナーも用意して
るので。

高村 なんでカルボナー？

記者 お好きだとお聞きしました。なんでも、マイフオークまで持ち歩い
てるとか。

高村 あのね、練習の合間にカルボナーなんて、しつこすぎでしょ？
口の中拷問する気か？

記者 私はイケますけどね。

高村 うるせえよ。

高村、逃げるように走り出す。

記者 痛いよお、高村君。

高村、立ち止まる。

間

記者 あの日たまたま現場近くに居た女性が証言しました。山井さんは死ぬ前に、こう呟いてたそうです。痛いよお、高村君。

間

記者 痛いよお、高村君。痛いよお、高村君。

間

高村、ゆっくりと振り向く。

高村 しつこいよ。

記者 ええ。昔からこうなんです。

間

場面は、高村の高校時代が変わる。

市内の陸上競技大会決勝。

高村、山井、スタート地点に並ぶ。

「第1コース、〇〇高校、高村君」「第2コース、□□高校、山井君」などとアナウンスが流れる。

記者はスターターに変わり、スタートラインの傍らの台に立ち、ピストルを上に向けて構える。

号砲。

二人、同時にスタート。

山井、転倒。

ゆっくりと起き上がる。

高村、欽ちゃん走り、あつという間にゴールまで到達。

山井、足を引きずりながら走っている。

なんとかゴール。

周囲から喝采が湧く。

高村（山井に）頑張ったね。大丈夫？

山井 大丈夫だよ。なんのこと？

高村 転んじやってたから。

山井（嬉しそうに）うん、お腹痛い。

高村 お腹なの？

山井 高村君。お腹痛い。

高村 なんて俺の名前知ってるの？

山井 アナウンスで。

高村 あ、そうか。君は？

山井 お腹痛い。

高村 名前は？

山井 山井。山井ワキカラ。

高村 変な名前。

山井 高村君。お腹痛い。痛いよお、高村君。

高村 大丈夫？

山井 でも走ったあ。

高村 ・・・うん。お腹痛いの、よく走ったね。

山井 うん。走ったああ。

場面は現在に戻る。

高村、台に腰掛ける。

高村 高校の頃は、俺の方が速かったんだよ。でも、俺がどんなに試合に

勝ったところで、いつも決まって目立つのはあいつだった。やれ、怪

我を押してだ、やれ祖母の死を乗り越えてだ、あいつにはそういうト

ピックがいつもくっついてた。

記者 たしかに、その方が話題になりやすい。

高村 でも、俺が勝っているうちは、そんなのどうでも良かった。俺の方

が強いんだって。強いヤツが偉いんだって。純粋にそう言えたから。

でも・・・。

高村も山井も社会人になっていた。

陸上競技大会一〇〇メートル走のゴール直後。

高村、息を切らしたまま、膝に手をつけている。

山井、息を整えるようにその場を軽く歩いているが、足を引き
摺っている。

高村 おい。

山井 なに？

高村 足はどうしたんだよ。

山井 え？ 怪我した。大丈夫。

山井、右足をさすり、

山井 ここが痛い。左足。

高村 右足だよ。

山井 高村君から見て左足。痛いよお、高村君。

高村 じゃあなんで。

山井 え？

高村 なんでお前が1位なんだよ。

山井 なんてって言われても。

記者がやってきて、山井にインタビューをする。

記者 山井さん、インタビューいいですか？

山井 あ、はい。

記者 優勝おめでとうございます。日本新記録です。

山井 あ、そうなんですか？ やった。

記者 膝にサポーターしてますけど、足の調子は大丈夫ですか？

山井 昨日の練習中に、膝を痛めてしまつて。でも、試合ではそういうの
関係ないですから。

記者 もし万全だったら、世界新記録も出ていたかもしれませんね。

山井 いえいえ。

高村、その様子を遠くから見つめている。

現在に戻る。

記者 あの試合のときはじめて、僕は山井選手に取材をしたんです。その

とき感じたんです。この男が、これからの日本陸上界を変えるって。

高村 あれ以来、俺はあいつに一度も勝てなかった。何回やっても負けた。

インタビュー。

並んで立つ山井と記者。

山井の腰が若干曲がっている。

記者 山井選手、優勝おめでとうございます。大丈夫ですか？ 腰曲がっ
てますけど。

山井 ええ、少し腰が痛くて。

別の試合のインタビュー。

山井、お尻をモゾモゾさせている。

記者 おめでとうございます。おしり大丈夫ですか？

山井 痔が悪化して。

別の試合のインタビュー。

山井、頬を押さえている。

記者 おめでとうございます。今日はどうしました？

山井 ムヒバ（虫歯）。

記者 え？

記者と山井、しばらくインタビューを続けている。

高村、現在に戻り独白。

高村 次第にあいつは、逆境を跳ね返して勝ち続ける「不屈のスプリンタ
ー」として、いろんなメディアに取り上げられた。ただの練習にも大
勢のファンが詰めかけて、陸上をはじめ子どもが一気に増えた。

記者、インタビューを終えて去っていく。
その場がロッカールームへと変わる。

高村、着替えを終えて、バッグからフォークを取り出す。

山井、ため息をつきながらロッカールームに入ってくる。

山井 あ、高村君。もう帰るの？

高村 ああ。誰かさんみたいに取材攻勢とか、されないから。

山井 まあ、仕方ないよ。

高村、バッグを担ぎ、ロッカールームを出て行くこうとする。

山井 高村君、今日も行くの？ カルボナーラ。

高村 まあ。

山井 たまにはさ、一緒に行かない？

高村 いや、いい。

山井 そっか。わかった。一人の時間も大事だもんね。

間

高村 今日は何だよ。

山井 え？

高村 今日は、どこが痛いんだよ？ どこが痛くて、試合に勝ったんだよ。

山井 今日は・・・(手の指先を見ながら) ささくれが・・・。

間

高村 関係ねえだろ。普通、ささくれじゃ、逆境になんないだろ！ なんと、それで英雄になれるんだよ！ 走るのに手の指関係ないだろ！

高村、山井の手を取り、凝視。

高村 そもそも指なんかなくても、走れるよな。

高村、山井の手を掴んで固定する。

山井 ちょっと高村君。なにすんの？

高村、山井の指をフォークでめった刺しにする。

山井、苦悶の表情とともに喚き声をあげる。

山井 高村君、痛いよ！ やめてよ、高村君！ 痛いよお！

高村(刺しながら) 痛いだろ？ いいか、山井！ これが本物の痛みだ！
これが、痛いっていうことだ！

高村、山井のもう片方の腕を固定し、指を刺す。

山井、悶絶。

高村 お前の痛みは、偽物なんだよ。見せかけの痛みなんだよ！ いいよ

なあ、痛い痛いって言ったりや、まわりは過剰に構ってくれるもんな！

山井 離してよ！ お願い、高村君。痛いよお！

高村、手を離す。フォークが指にぶら下がっている。

山井、崩れ落ちる。

間

高村 言うんじゃねえぞ。今のこと誰にも。なあ。お互い様だよな？ ありもしない怪我をでっち上げて、世間から注目浴びてたお前だけどもそれは、俺たちが黙ってたからだろ？ なあ？ だからお前も、言うんじゃねえぞ。約束な。

高村、山井のナイフの刺さった小指をとり、指切りをする。
指を離す。

高村 破ったら、本当に切り落とすからな、その指。

山井、這いつくり、逃げるようにその場を去る。
現在に戻る。

記者 なんで、傷つけたのは、手の指だったんですか。なんで、足じゃなかったんですか？

高村 ・・ランナーにとつては、足は命の次に大事なものだろ。それを意図的に狙うなんて、同業者としてできるわけないだろ！

記者 指ならいいんですか？ 結局山井さんは、指を切断することになったんですよ？

高村 そういうわけじゃ……あの時は、どうかして……。

記者 どうせなら、足をやっておけば、蹴落とせば済んでしょ？ とどめをさせたでしょ？ そうすれば、あなたが山井さんに負けることも、もう一生なくなる。

高村 アスリートとして、それは自分自身が許せない。

記者 嘘だ。あなたは、自分の手を汚したくなかっただけだ。

高村 嘘じゃない。あのときはカツとなつてあんな残虐なことをしてしまつたが、足だけは傷つけまいと。

記者 嘘だ！ 嘘だ嘘だ嘘だ！ あんたはわかっていたんだ。手の指を奪うことで、山井さんの陸上選手としての生命が終わってしまうこと。

高村 そんなわけがないだろ！

記者 ……クラウチングスタート。

高村 ……え？

記者 短距離走の決まりで、スタートはクラウチングじゃなきゃいけないんですよ？ でも、山井さんは指がなくなってしまったせいで、上体を支えられずに、その姿勢がとれなくなってしまった。それに、パトンも掴めないから、リレーメンバーにすら選ばれる可能性もない。つまりあなたは、指を奪うことで、短距離走者としての山井さんを殺したんだ！

問

記者 どうでしたか？ 山井さんがいなくなって、やっと一番になれた時の気持ちは？

インタビューの場面となる。

記者 高村選手、どうですか？ 初優勝の味は。

高村 いやあ、気持ちいいですね。

記者 山井選手は、今回怪我で不出場ということなんですが、何かあったんですかね？

高村 さあ。

記者 そうですか。ありがとうございました。

高村 え？

現在に戻る。

高村 本当にとんでもないことをしてしまったと思ってる。あの日以来、ずっと苦しいんだ。確かに、俺が一番になった。日本を代表して世界とも闘った。でも、結局、自分自身がわかかってるんだよ。俺は結局、偽りの一等賞だった。それをごまかしながら、俺はトップの座に居続けた。やめるべきだった、そんな偽りも、陸上も。

間

高村 あんたさつき、山井は殺されたんだって、言ったな。確かに、そうかもしれない。あの一件以来、あいつは抜け殻になっていた。だからあの時、思い詰めて突発的に道路に飛び出して、車に跳ねられたんだと思う。その原因は、俺にある。あいつは俺を恨んでたんだろう。当たり前前だ、あんなことをしたんだから。だからきつと、死ぬ前に俺の名前を呟いたんだ。

間

記者 嘘だ。

高村 きつとそうだよ。俺を恨んで、あいつは自ら身を投げたんだ。

記者 嘘だ。あんたが殺したんだ！ あんたが、山井さんを道路に押し出したんだ。

高村 ……え？

記者 さつき話した女性の方ね、ちょうどあの時、カメラで撮影していたんですよ。そこに、あなたの姿がはつきりと。その後あなたが向かった先や、行動まで、ちゃんと収められていました。

高村 ……え？ 嘘だろ。そんな…。

記者 さつきはあんなにカッコつけてたけど、結局、一位でいたかったんじゃないですか。山井さんがこの世から消えてしまえば、あなたは正真正銘の一等賞になる。それを望んでたんでしょ？

間

記者 ああ、あ。高村さん、嘘ついた。針千本飲みますか？

記者、フォークを取り出す。

高村の頭を掴み、喉にフォークの先を近づけていく。
照明F・O

了